

2013.12.13 北海道
JR北海道

脱線直後も改ざん

現場付近異常なレール幅

北海道七飯町のJR函館線で9月に起きた貨物列車の脱線事故で、6月に脱線現場近くで計測した基準値を超えるレール幅の異常な広がりがあり、実際は最大39ミリだったのに、事故発生約2時間後に25ミリと改ざんされていたことが12

日、分かった。JR北海道の笠島雅之工務部長（取締役）はレール幅異常の放置が「脱線原因になった可能性は否定できない」と認めた。札幌市の本社で記者会見した笠島氏は、6月の計測以降、9月の事故までに脱線する限界値の43ミリを超えていた可能性があると述べた。現場付近で補修が必要になる基準値は19ミリだが、2倍超の数値が大幅に縮小されたことになる。

脱線事故後、改ざんした虚偽の数値を国土交通省や運輸安全委員会、現場を実況見分した北海道警に報告していたことも判明。今後、改ざんに関わった担当者が脱線原因を隠蔽しようとした可能性も含めて調べる。

運輸安全委は12日、「事実をゆがめるもので言語道断だ」とのコメントを発表した。

JR北海道によると、事故は9月19日午後6時5分ごろ、列車の待避などに使う副本線で発生。同日午後8時ごろに現場を管轄している大沼保線管理室の保線担当者2人が6月7日の数値をパソコン上で改ざんした。午後10時ごろには上部組織である函館保線所の社員1人が、他の数値との整合性を取るため周辺の計測値の改ざんも指示し、最終的に計27カ所を改ざんしていたという。